

答 「仰有る通り、世の中へ出ますと、資産の程度にも地位にも學力にも差別がありませんし、又職業も千差萬別でありますのみでなく、一人々々が皆變つた性質を持つて別々な事を考へて居りますから、總べての人と分け隔てもなく、心から親しんで愉快に生きて行き度いと思ひましても、却々思ふ様には參りません。けれども事業や趣味を、總ての人に合ふ様になど、望めば、到底出来る事ではございませんけれども、お互に真心に親しみを持合つて、朗らかな氣分で、明るい社會を造つて生きて行かうといふ願ひならば、出来ない事はありません。それは唯理窟を抜いて、真心だけで、人に接して行く事であります。自分に對して、世の中の總ての人が、向ふから親んで呉れるだらうとか、信じて呉れるだらう、愛して呉れるだらうといふ様な考へを持つてゐては、絶対に親しみの深い楽しい社會を造る事は出来ません。世の中の人みんな夫々に、自分に與へられた天職のために、一生懸命になつて

働いてゐるのですから、殊更に人の心持に、自分から近づいて、親しんで行かうと考へてゐる人は、萬人に一人もありません。

それでございますから、先づうるはしく親しみの深い社會に住み度いと思ふならば自分の方からその種を蒔いて行く事です。

一例を申しますならば、道を歩いてゐる時に、人と行き違ひます。

向ふの人は、何か考へ事をしてゐるとか、餘り朗らかでない顔をして居るとしても、こちらで真心から、朗らかな優しい心持で、

「今日は。」とか又は

「お早うございます。」

とか微笑んで言葉をかけますと、相手は忽ちうっかりしてゐた魂が真心に歸ることになりして、同じ様に快活に挨拶をするものです。

蒔いた種は、此處ではつきり花が咲いて、お互の人情に匂つてゐませう。

電車汽車の中でも、濫りに誰彼の別もなく疑ふ様な目をして、見廻したり、又不
 謹慎な態度を取つたり、色々な素振りを致しますと、總ての人に厭な反感を抱か
 せ、暗い感じを起させて、陰険な冷い環境を造るものであります。

感謝に満ち切つた様な心が、全身に溢れてゐますと、何となくその人は、朗らか
 な明るい感じを、自己の周囲に放ちます。

尙態度も床しく、言葉も優しく、總べての行動が、眞實に満ちて、謙遜の徳が
 ありますと、その人一人の力でも、その邊りに、何とも言はれない明るさと朗ら
 かさの強い、人情の華が薫るものであります、之は身分財産や學問の有無に拘
 らず、總てを通じてのお話でございますが、いつも楽しい朗らかな社會のみに住
 み度いと思へば、自分の行く先、逢ふ人毎に、誰彼の差別なく、眞心からその人
 の存在と、天職を祝福して尊び、同じ祖神から生れた、懐しき同胞であるといふ
 氣持で、心から親しみ、よく信ずる事であります。

何につけても、心から感謝して、勿體ないと思つて合掌する心に、相手の者が尊
 く輝いて見えるのであります。

それに依つて、有り難いといふ觀念が湧き起つて参りますと、尊い行動となつて
 現れて、自然に頭も下るし、言葉も優しくなるし、目も美しく輝いて來るし、顔
 の色艶もよくなるし、行ふ事も總てよく正しくなつて参りますので、始めて向ふ
 から愛せられ信じられ、用ひられる様になつて参ります。

眞に住みよくうるはしい世の中に生き度いと思ふならば、先づ世の中に向つて之
 を求めるといふ、矛盾を止めて、自己に強い愛と誠と正しさを以て、いつもさう
 した社會をうるはず、喜びの華の種を擱んでゐて、行く先々で勿體ない有り難い
 と、心から感謝して、之を蒔いて行けば、ごちらへ行つても、人情の華が咲き匂
 ひが満ちて、いつも春風の中に住む様な楽しい、美しい人生の中に、暮す事が出
 來ると思ひます。」

言の葉の花の色こそかはりけれ
おなじ心の種ときげども

眞の國寶

問「世の中で一番尊いものは、どんなものでございませうか。」

答「昔から寶物と申しますと、すぐに金銀珠玉、綾錦などと言はれて参りました。」

又その外にも書畫骨董、佛像建築物等、その他國寶として、尊ばれてゐるものは澤山ございますから、何が一番國寶として、尊いものであるかといふ事を擧げる事は出来ませんけれども私は、眞の國寶と言へば、完全な品性人格と、體格を持つた、人間であると思ひます。ごの様な寶がその家又、その國に山と積まれ、廣い土地等を持つてゐましても、

それを支配する人間に、尊い力がなかつたならば、山なす寶も金銀財寶も、世の中の爲にも家の爲にもならないばかりか、却つて大きな害をして、國も衰へ、家も衰へ、我が身も家族もそれがために、滅亡する様な事になります。

それは外國にも色々な例がありますが、日本の國にも、澤山ございます。持つ人の心に依りて瓦ども

玉どもなるはこがねなりけり

の御歌の通り、財寶が寶として輝く場合と、却つて害となつて、國を滅ぼす場合とございます。

之は皆その國の人の心の持ち方と、物の取扱ひ方に依るのでございます。人の體と心が、正しくて健全で、強く尊くありますと、知らずくの間、總べてのものを、國のため世のためになる事をのみ、正しく働かせますために、いよく國は富み榮え、世の中は朗らかで住みよい社會に改つて行くのであります。

それでございますから。

畏くも聖上陛下におかせられましたは、國民の事を國の寶と宣はせ給うて、限りなく御慈しみ給ふのでございます、凡そよき國民は、國の寶はないのでございます、假令これ程澤山人數が殖えましても、その心が不純不正であつたり、體が懦弱でありましては、害蟲が繁殖する様なもので、國の力は益々之に依つて衰へるばかりで、國力が隆昌するといふ事はありません。

總ての物質と、色々な社會の機關を支配して行く國民の眞に堅實であり、賢明であるといふ事以外に、國の榮える道はありません。

ために眞の國寶は、絶對的に正しくして強い、國民だといふ事を申し上げます。」

問「御尤もでございます。」

如何なる金銀財寶、その他の物質よりも、之を支配して行く、尊い正しい力を持つ國民が國寶であると仰有る事は、御尤もだと存じまして、私はそれを深く信じ

ます。

それでございますから、今後日本の國を、もつと實際に強く正しい住みよい國にするためには、不良不正な國民が出来ては大變でありますから、之を防いで、飽迄心身共に健やかで正しく、眞の國寶的な國民のみが生れなければならぬと思ひますが、日本は今後、ごういふ方面に力を盡しましたならば、この目的が達せられませうか。」

答「それは根本から正しく培ふ事でございます。」

尤も政治、宗教、教育その他、社會の現實の制度や、實際の狀態が、幼い時から伸び上つて来る幼年、少年、青年男女に、大きな感化を致しますから、これから生れて来る國民を、本當に眞の國寶として、價値ある様に育てるためには、現在のあらゆる社會の様な、偽り貪り不正不平不満不實といふ様な、社會を濁してゐる毒素を抜き取つて、總べての人の心身の生活を、正しく眞實に懇ろに、感謝と

報恩の合掌の生活に改めて、清い美しい人情を、精神教育の食に與へ、總べて正しき純正な眞理を、總べての生活の鑑みとして、教へ導かなければ、眞の國實としての國民は、出来るものではありませんから、現在の様な、社會國家の状態を考へて、根本から一大改革をしなければ、ならないといふ事は、申す迄もありませんけれども、又考へて見ますと、こんな状態になつたのも、元から出た芽に花が咲き、實が成つたのだとも言はれます。

ために私は矢張りもどが大切だといふ事を、根本的に考へて居ります。

教育と一口に申しますと、簡単に申されませんが、人の體と魂を造る業ですから容易なものではありません。

教育には、社會教育と言つて、一般廣い社會から、自然の間に見たり聞いたりして覺える教育と、學校に或る年限の間通はせ、一定の方針を立て、智能學識を授ける學校教育と、家庭教育との三つがあります。

この中學校教育が、一番効果が多いのでございますけれども、假令學校で、同年の子を、同じ教室に集め、同一の先生が教へても、子供の持つてゐる魂の賢明か愚鈍かに依つて、成績の上に、大變な差を生じますから、一概に平等の力と考へる事は出来ません。

學校の教育が、どれ程効果が大きいと申しましても、ごんな神に近いかと思ふ程の、力のある先生が、眞剣で教へられても、その子の持つてゐる個性迄造り直す事は容易に出来るものではありません。

それは例へて見ますと、植木屋が、ごんなに名人でも、丹念に鋏を入れ、枝振りやを矯めて、美しい形に手入れは出来ましても、それに依つて主人から激賞されましても、松が楓に變つたり、梅の木に櫻を咲かせる事は出来ません。

磨き上げて、鐵は鐵といふ譬への通り、人の子の世の中へ生れて來てから後で上から色々人の力で、眞の心を磨き育て上げようとしても、容易な事ではあり

ません。

この事をよく／＼考へまして、その子供の家庭に歸つて、家庭教育を先づ第一にしつかり行ふといふ事も、大切でありますが、それだけでは何の役にも立ちません。

眞の國寶は、母の胎内に宿つたその瞬間から、芽が伸び初めるものでございます。お母さんにしてもお父さんにしても、その子を生むためにとて、ごういふ力も盡す事は出来ません。

それこそ骨肉血その他、胎兒の體の組織等は、髪の毛一本造る事にも、手を觸れる事は出来ない、實に嚴肅な、神様の御業に依つて、組立てられてゐるのでございます。ですから、この眞の魂と體になる、諸成分は、神の御力に依りて、自然に授けられて生れるものでございます。

けれども神様から生れる子の親として、負はされる責任は、どんなものかと申しますと、神から尊く授けられた、その子の肉體と、純眞な魂を強く正しく、豊かに伸々と、守り育て、世に生み出して、尙その幼き魂と肉體とを、強く正しく育て上げて行く事でありませう。

若し父として選ばれた男性が、身體弱く、性格不純にして、品性人格も修まつてゐないで、體に病氣等のある場合は、その總べてが、不純な心身の種となり、又母として選ばれた女性が、同じく身體が弱く、性質も不純で、品性人格も備つてゐない場合は、皆その不純不徳不健全が、子供の心身に強く感化して、生れない前から、不良な子に組織されて、生れて來る譯であります。

父の體が健康で、魂が純眞で、智能才智に富み、信仰に満ちた人格者であれば、純正な種が宿る事は當然であります。

又母の體格が健康で、性質も清く正しく、純情で信仰深く、忠孝の道を尊び、之を實行し、夫によく仕へ、その身も家庭の周圍をも清潔整頓して、あらゆる周圍

を美しく、明るくして、朗らかな心持で、感謝に満ちた生活を繰返してゐますとさうした心身の生活の全體が、残らず胎兒の魂と體に影響感化致しますので、お母様のお腹の中にある間に、既に山と積まれた、金銀財寶にも、比べる事の出来ない、眞の國寶が生れて來るのでございます。

之を思ひましても、之からの若い皆様は、いよ／＼多事多難な、君國の將來を負うて立つて頂かなければならない、重い責任をお持ちの方々でございませうから、教育は學校へ入れて、机の上で先生が、読み書きを教へる事だ、又社會へ出て教へられるのだ、又家庭で「あんよは上手。」などと云つて、手を引つ張つて歩かせたり、食べ物を食べさせたり、着物を着せる事が、親の責任だなどいふ、輕薄な考へをお持ちにならないで、眞の國寶は、純正な子寶である。

子寶を得るもとは、父と母との心身の健全と堅實なる品性と人格に依るものである。事を、はつきり御承知になつて、お互に御自身の體を、健やかに強くし正しくして、よき父となり母となつて、國寶の種となる、覺悟をして頂かなければなりません。

お百姓がごれだけよい種を蒔いて、眞心をこめて努力しても、太陽や空氣や水や風といふ様な、自然の恵みがなければ、地上に五穀野菜や、その他何一つ芽生えて來るものではありません。

それを思へば、神の恵みの、如何に嚴そかにして、尊いものであるかといふ事が分りますと共に、又神様が、どれ程よき土を與へ、うるはしき光と水、空氣を與へてお慈しみになりましたも、お百姓が種を蒔いたまへで、眞心から培はなかつたならば、假令その種は地上に芽生えても、雑草に禍され、害虫にその根も葉も花も蝕まれて終つて、到底完全な收穫を上げる事も出來ず、翌年の種として選ばれる事はあり得ません。

この實際の有様を、よくお考へになつて、結婚に對しては、先にも申しました様に、唯心身の健全といふ事を、標準として、夫婦の間柄も共に相親しみ、相助け眞に一身同體の實を擧げて、神様から與へられて、生れて來る子供の心身を健やかに育てる事は、平等の負擔として、責任を持ち合つて、最善の努力をしなければなりません。

殊に過去に於ける男子の方には、妻が妊娠して、月も重つて苦しむ頃は、他へ遊びに行つて、不純な行があつて、妻に苦勞をかけたたり、妻の心身を惱ませ、胎兒に悪い影響を與へる人がありましたが、かういふ事は、賢明なる男性の、斷じてなすべき事ではありません。

又妊娠中に於ける妻の食物の過半数以上は、胎兒の體の組織のために、取られるものでありますから、妊娠中の妻の食べ物に就ては、家族殊に夫なる人は、常に細心の注意を拂つて、成るべく榮養分の多いものを攝らせる様に、努めなければ

なりません。

自分是他所へ出て、美酒美食に親しみ、妊娠中の妻が、嫉妬愚痴不満に泣き榮養分なき粗食を攝つて、榮養不良に陥つてゐる様では、決して眞の國寶としての子を世に送り出す事は出来ません。

この點に就きましては、青年の方も、處女の方も、この實際の事柄を眞心に納めておいて、その場合に臨んだ時でなく、今からその準備を調べておいて頂き度いと思ふのでございます。

しろがねもこがねも玉も何かせん

まさされる寶子に如かめやも

其三 總ての病氣と其の手當法

世の中で、一番人の樂しかるべき生活を破壊して、不幸に陥れるものは、病氣で
たゞいいます。

假令如何程の金銀財寶を山と積み、高い地位名譽を持つ人も、一度その體が病に冒
されますと、心身は痛み惱まされ、五體は衰弱して、氣力衰へ、食も進まず、安らか
な睡眠を取る事も出來ず、我が身一つでその悩みを負擔しなければなりません。

如何ほどの代償を拂ひまして、他に譲らうとしても、外の人に代つて病んで貰ふ事
も出來ず、これ程親しい肉身の間柄でも、代つて病苦を引受け、又滅亡して行く生命
に代る事は出來ません。

これを思へば、世の中に、病にその身を冒される程、不幸な事はございません。

尤も誰にしても、我から好んで、病氣になる人はありません。

世の中の總ての人が、病氣を厭ひ、この禍から避け度いと願つてゐるのでございま
す。

それでございますのに、世の中の人には、よく病に冒されて、苦しんで居られます。
何故にこんな風に避け度いと願ひ乍ら、病魔に冒されて、大切な肉體を病まなけれ
でならないのでございませうか。

人が病氣になりますと、大概の人は、すぐにお醫者様に走る、又藥を買つて來て吞
ませるとか致します。

神經を病む人は、何かの障りがあるのではないかと、迷信を起して、色々な所へ行
つて、加持祈禱厭呪などをして貰ふ人もあります。

人が病氣になつた時、直ちにお醫者様にかゝつて、藥を頂いて呑んだ、注射して貰

つた、又買ひ薬を呑んだ、加持祈禱をしたといふ事で、本當に病氣が全快するものでせうか。

人が病氣になるといふ事は、一朝一夕に起るものではなく、その原因は、ずつと根にある事でございます。

それを考へないで、枝葉や花の弱つたのを見て、上から水を與へたり、目に見える害蟲を取り除くだけでは、一時は精氣が出て、復活して、元氣が戻つた様に見えますが、根が枯れてゐたり、害蟲に蝕ばまれてゐれば、必ずその草木は枯れて終ふのでございませう。

それと同じ様に、お医者様は、色々人の屍體を解剖して、内部の構造や、病氣に胃されてゐる、局部等を、調べて研究したり、又犬猫鼠その他の動物などを解剖してその内部の構造を研究したり致します。

それに依つて、人間の體の組織や構造を研究して、醫學を修められ、醫術を研究さ

れるのであります。

それからお薬といふものは、どんな物であるかと申しますと、大方は草木の根や葉や皮や實などには、人の體の構造と同じ様な成分が含まれてゐますから、さういふ成分を取つて、色々工夫して、薬に造つたものであります。

ですからどんな呑み薬附け薬等でも、殆どかうした種類のものであります。

殊に現在は、西洋醫學が日本へ入りまして、西洋の薬品を、澤山使つて居りますが西洋人は肉食でありますから、體が動物性食品に依る組織になつて居りますが

東洋人は、只今では肉食も多少する様にはなりましたが、大體は米を主食として、植物性の食べ物と攝つて居りますから、身體の構造は、骨も血も肉も、植物性の成分に依つて、出来上つて居ります。

この點全然東洋人と西洋人とは、肉體の根本組織が違つてゐます。

それでございますから、その肉體に缺陷を生じて、病を起した場合、動物性食品に

依つて組織されてゐる、西洋人の體に合せて造つたお薬が、そのまゝ、植物性の成分に依つて造られてゐる、東洋人の體に合ふ道理はございません。

單に合はないといふだけならよろしいが、却つて害になつて、取返しつかない様な事になる場合が、随分多いのでございます。

今日本には醫師の數も夥しく殖え、藥の數も數へ切れな程出來ましたが、病人は一層澤山になりました、惱まされて居ります。

之は言ふ迄もなく、體質に全然合はないのみか、害をする怖ろしい藥物が、我國に輸入されて、之を我が國民は、知らずの間に、高い代價を拂つて、用ひてゐるからでございます。

人の病む病氣といふものは、或る一部分を除く外は、大方原因があつて、その根から起つて來るものでございます。

その道順は、どんな状態を辿つて來るかと申しますと、心に悩みがあり、不平不満

愚痴といふ様なものが起つたり、又虚榮傲慢貪り、怠慢恐怖といふ様な心が、知らずの間に、周圍から感化を受けて、胎内に潛むものであります。

それがために、大方の人は、自我心や自尊心が強くなつて、何時となく何かにつけても、物事を不満に感じたり、不平を唱へたりして、自分の心に悩みを感じます。

又少し外形の地位が上るごか、名譽が出來るごか、お金が溜るごかすると、それに凭れて、勤勞をする事を、避ける様な傾向になつて、體を絶えず快活に、規律よく動かさません。

又濫りに贅澤になつて、食べ過ぎたり、飲み過ぎたりして、體に取り入れるべき食糧の分度を超える事があります。

又暇と金とのあるに委せて、空氣の不潔な寄席や劇場や、不潔な巷へ出入りして、不攝生な生活を致しますために、之が病氣を起す原因となります。

之皆心が誤つて、總ての禍の基になつて四百四病の基を造つてゐる事を知らねばな

りません。

一つ／＼に病氣の種類や、それに對して盛られる藥などの事に就て、説明致しますと、長くなつて、限りがございせんから、此處では致しません、全體の病氣となつて現れて來る原因と、それ等に對する手當てを、お話致して見ます。

心に何か不平か不満か恐怖か激怒、惱み等を、強く感じますと、その血液が變化して、色々な毒素に變りまして、骨を害し肉をも強く刺戟致します。

人の體の中には、動脈といふ血管が通つて居りまして、その中を絶えず、心臓から送られる血が、全身を廻つては歸り、又濁つて歸つた血が、清められて送られるといふ、微妙な働きをして、全身に活動して居ります。

その間には、肉體の全體に渡つて、神經といふものが、張り巡らされて居ります。

普通心身が壯健であります時は、血液が清らかで、どし／＼と體中を巡つて居りますから、神經にも何の影響もありませんので、健康で元氣でゐられますが、外部から感

じた、激烈な感情に依つて受けた、精神作用に依つて、美しい血液に毒素を發して、濁り粘りを生じますと、血管をどし／＼と巡つて行かないで、何處かに滞ります。

それがために、血管が太くなりまして、神經を壓迫しますので、神經が痛みを感じて、苦しみが現れて來るのが、病氣なのでございます。

腦溢血を始め、腦貧血も頭痛も、神經痛等も、皆かうした状態から起るのでございます。

その他胃腸病、腹膜炎、肺病等を始め、澤山の病氣がありますが、何れも精神作用から起つた、原因に依つて、肺の力が弱くなつたり、胃腸の完全な活動を弱くする様な食べ物を食べたり、又體の活動を、不自然に扱つた爲に、その部分に、故障が起つて、そこを通過する血管が、膨張して、順調に血液が循環出来ませんために神經を壓迫致します。

そのために痛みを生じて苦しむのでありまして、その他外の病氣も、之と同様でこ

ございます。

中には盲腸が悪いとか、胃が下垂したとか、腸が捻轉したとか言つて、大變難しい病氣もありますし、又婦人病などには、腹部を切開しなければならぬ様な場合もございませぬから、醫術といふものは、大變難しいものでございまして、治療を誤つて、神様のお造りになりました、自然の身體の構造を破壊したり致しますと、可惜生命を失ふ様な事になりますから、腹部等を切開して、内部の矛盾を自然の状態に直すといふ様な醫術は、餘程經驗のある、信用の出来る醫師でなければ、信賴して行つてはなりません。

何れにしても神様の御構造下さつた體の組織が、不自然な事をしたために病氣といふ悩みを生じたのでございますから、醫術に依つて、自然の状態に治すといふ所に、醫師の天職はあるのです。

自然の状態に治して終へば、動脈が正しくなつて、血液がよく循環致しますために全身の神経を、壓迫しなくなりますから、痛みが取れて、全快といふ状態にかへります。

醫術は、その病氣の起つた部分の成分を調べて、その部分の神経その他が弱つてゐますために、その成分の力を、外部から助け、刺戟を起させるために薬品を用ひるのでございます。

又時には神経が動脈に壓迫されて、痛んで耐らない時に、注射を致しますのは、神経の働きを一時押へて終ふ力のある、薬品を打込むものでありまして、之は決して永久性のもものではなく、一時だけのものであります。

それでございますから、病氣は醫師の手術や、お薬だけで治るかご申しますと、決してそんな力のみで治るものではありません。

手術や薬は、病氣を治すために用ひる、補助作用であるといふ事を、はつきり知らなければなりません。

それならば病氣を、根本から治して終ふ、眞の力は何であるかと申しますと、それは患者その人の持つてゐる、靈氣の力であります。

最初病氣は總て、精神の働きから起るものでありますから、昔から字でも氣を病むと書く位でございます。

ですから魂をしつかりとして、正しい心持にかへつて、朗らかな氣分になつて、規律正しい自然の生活にかへつて、強い力で、自分の體を支配して居りますと、少し位の病氣などは、薬一服飲まなくとも、又お醫者様にかゝらなくとも、忘れた様に治つて終ひます。

まして加持祈禱まじなひなど、いふ様な事は、絶対に必要はありません。神様は、人をお造りになる時、絶対に病などに冒されない様な成分で、體をお造りになり、純眞な魂を、これにお授け下さつてあるのみでなく、始終宇宙から太陽、空氣、水を與へて、大地の土に合して、その間から、生み出されました、衣食住を與

へて下さいますして、

「常に健やかに生きよ、

心身を病むな。

朗らかであれ。」

と御守護下さつて、生みの子の仕合せのみを、願つてゐて下さるのでございます。

ですから人は、皆この絶大なる神様の、大悲大愛の限りなき御守護に感謝しまして浮雲の様な、假初の地位や財産名譽等に因縁をつけて、殊更に之にこだはつて、慢心したり、虚榮心を起して虚勢を張つたり、天恩に感謝もせず、自我傲慾心を起したり不満不平を言つて、勤勞を厭ひ、贅澤したり、分度を越えた美衣美食を攝つたり、夜更しをしたり、遊び過ぎたり致しますと、自分の體と心の生活が、自然に背きますから、すぐに故障が起つて病氣になつて苦しむのは當然でございます。又それがために、財産地位名譽、世間一般からの信用も失つて、自分の不自然な行

ひをして、神に背いた爲その罪に依つて、自分の身をも滅亡する事になるのは當然でございませぬ、正しく身を行ひ、忙し者に病なしといふ事を知らねばなりません。誰でも病氣に罹つた時、自分の過去に於ける心の生活と、それに依る體の取り扱ひが、神に背いた、不自然な事をしたと氣がついたら、忽ち一大勇氣を以て、自然生活に改めて終つて、神様の御旨に魂を返して落着くのです。

さうすると、非常に強い、正しい魂にかへりますために、餘程の病氣でもこの魂の力で、ごし／＼と癒して終ひますから、薄紙を剥ぐ様に治つて終ふものであります。人間の魂は、とても力強い、全身を支配する、靈氣であるのみでなく、神様は外部からも靈氣を助けて、病魔が近づかない様に近づかない様に、守つて下さいます。若し不幸にして、病氣に罹つた場合は、體内の靈氣を助けて、一刻も早く、憎むべき病菌を驅逐し滅亡せしめて、健やかな自然の健康状態に戻して、治してやらうと、非常な力でお助け下さるのですから、病氣にかゝつたら一番先に心を正しく改めて、神

様に背いた罪を詫びて、今後は絶対に誤つて不自然な生活をして、尊く與へられた心身を害はない事を、神様に誓つて、安心し切つて、強い魂になつて、病氣を征服する事に邁進するのです。

この氣力の起つた人は、心身既に衰へて、命脈の絶えかけた人でも復活して全快する事は疑ひありません。

反對に若し自己を反省して、その行を改める事なく、徒らに醫藥のみに信賴し、病氣のみ怖れて、氣力を弱く持ちますと、宇宙の大靈が、その靈力を助けようと、ごれだけ力を與へて下さつても、體内の靈力に之を受け入れる力、純真さがありません。ために病菌の方が益々増長して、次から次へと、外の病まで引張り出して来て、體中病菌の集窟の様に、荒し盡して、ついにその體力を倒し、可惜生命さえ終る事があります。

それでございますから病氣に罹つても、神経過敏で、精神が憂鬱で、強情な心持で

信仰心のない人は、大低助りません。

自分の罪に依つて、自分の身を滅ぼすのであります。

肺病などは多く、全快出来ない様に、考へてゐる人がありますが、肺病等に限つて醫藥の効果などは、最も薄いもので、今申した氣力だけで、完全に征服出来るものがありますから、若しこの病に犯された人は、我が身に満ちてゐる靈力と、宇宙の大靈の力を以て當れば、百人は百人、千人は千人、全部病菌を滅亡させて、全快するものでありますから、この理をよく御承知願ひ度いと思ひます。

尤も私は決して、醫術や藥品は、効果がないと申す譯ではありません。

方法を過つた場合にのみ、禍があるといふ事を、申述べましたに過ぎませんから、病氣の場合には、信用の出来るお醫者様にかゝつて手當を受け、藥を吞まれる事も結構だと思ひますけれども、手術やお藥が、病氣を治す主體であると考へてはいけません。

これは病氣を治す補助力であつて、總ての病氣を治す力は、自己の靈力、言ひかへれば、精神の力であるといふ事を、はつきり御承知願はなければなりません。終りにはつきりと申し上げておきますが、人は皆天と地の間から生み出された、自然の子であります。

天は陽性にして、萬物を生ませる父であります。

地は陰性にして、生み育てる母でありますから、人は常に、如何なる身分地位財産の有る無しに拘らず、自然といふ親様に親しむ事を忘れずと、すぐに心も體も禍にかゝりますから、毎日懐しい心持で、生みの母である土に親しみ、生みの父である御空の太陽、空氣、水その他、自然の靈氣に、その心身を親しんで、絶えず明るい朗らかな心持で、規律正しく、自然の法則に従つて、神様と共に働くといふ心持で、難しい理窟などを考へたり、人に向つて愚痴や不満不平を言つたり、偽りを言つたり、貪つたりする事は止めて、いつも心は爽やかに正しく、純真な真心に満ちて、寢ても

醒めても、有りがたい勿體ないといふ事を、心から感謝して、懐しい心持で、大自然に親しみ、周囲の人々や、世の中の誰彼にも、真心で親しみ、人ばかりではなく、總ての物に對しても、天恩物と感謝して、大切にして尊んで取扱つて行けば、これが本當に神と共に生きる、自然と眞理の生活でありますから、一生病氣や誤ちや、心に悩みといふ様なものは生じないで、一生を通じて、仕合せな人生を過す事が出来ます。總ての病氣ごその手當てにつきまして、一々委しい事は、お話を致しませんでしたが、如何なる心身の病も、この力に依つて、根本征服して、健全なる心身を維持されて、長壽を完うして、人の人たる道を、力強く大光明輝く神の道をのみ、お進みになる事が出来るといふ事を申し上げます。

幸ひにこのお話が、親愛なる皆様の將來の御幸福のために、多少たりとも貢獻する事が出来ましたならば、私の満足は、これに過ぎたる事はございません。終りに臨みまして、真心から皆様方の、御心身の彌が上にも御健勝にあらせられま

萬壽華の歌

す様に、天地の神様に祈つてこの稿を終らせて頂きます。

一、御空の月は輝けご
 地上に華の薫らずば
 如何でか人の微笑まん
 見よ天然の春の山
 夏は銀河の星の色
 眩ゆく咲くや萬壽華の花

二、千萬づの昔天つ國

女神地界めがみちかいに使用つかひして
 麗うるはしき華はなの種たねを植うえ
 露つゆ一ひとしづく雫しづくの野のに置おけば
 天あまつ光ひかりに恵めぐまれて
 地界ちかいに開ひらく萬壽華まんじゆげの花はな。

三、萬里涯ばんりはてなき海うみの面もに

静しづけく響ひびく波なみの音ね
 如何いかなる神かみの何いつ時つの世よに
 なせる御業みわざかなつかしき
 永久とこほに盡つきせぬ海原うなはらに
 限くまなく満みちよ萬壽華まんじゆげの花はな。

四、天地あめつちの恵めぐみの中うちに生うれたる

人ひとの命いのちの尊たうとさよ
 誠まことの心身こころみに添そはゞ
 清きよく優やさしく麗うるはしく
 人世ひこよの中なかをうるほさん
 薫かほりも高たかき萬壽華まんじゆげの花はな。

萬壽華 終

筆を納むるに當りて

萬壽華の稿を終りますに當りまして、謹んで本誌の愛讀者諸賢に、御挨拶申し上げます。

著者は元來力弱き一女性であるのみでなく、智徳學才に乏しき者でございますために、過去の生活は、至つて平凡なものでございました。

それであり乍ら、絶えず何とも知れない様な、責任感が、深く心の道を往來して、人として尊く、生命を興へられたからには、甲斐ある様に、君國社會と人世のために盡さなければならぬといふ、義務觀念の離れた事はありません。

この信念あるがために、努めて學び努めて進んで、學徳を修めようと、努力致しました。

爲に、時には本心でもない、不可思議な自尊心の様なものも、自己の一部分から、頭を擡げかけた時もございますが、幸ひに大神様の御神徳に依つて、是等の自我負心自尊心等の雜念は取り去つて頂けまして、漸く此頃半生を越えてから、自己といふものゝ眞の姿と、その天命をはつきり知つて、迷はない信念が出来ました事を、深く感謝して居ります。

今日迄も十種を數へる程、著書を世に公に致しましたけれど、その度毎に、今度こそ、人世のために、生命を打込んで、眞剣で念願して、筆を執つたものばかりでありまして、何れも眞心を神へ捧げた念願の結晶であると、今も固く信じて居りますから、それが假令今讀み直して見て、大變粗末なものでありまして、力の及ばなかつた無力さを、恥ぢこそ致しますけれども、些かも悔ゆる所はございません。

何となれば、その時ノノに當つて、全身全靈を捧げて、祈りをこめて、筆を運ばせたので、それ以上には、注ぎ入れるべき何ものもなかつたといふ事を、はつきり承知

してゐるからでございませう。

以上の觀念を持つて居ります私が、今度の萬壽華の編纂に當りましては、過去に於ける著書の、著述の時の心持とは、覺悟も信念も、全く超越して、眞に無我であり、夢中であつたのでございませう。

何となれば、この書の發行が、私といふ女性の、天から生み下された、目的であると觀念したからであります。

時は今古く長き神國日本の歴史にも、嘗てない程の、重大な國難に直面して、將に國民の一大奮起覺悟を要する時でございませう。

國民の總てが、誤れる外來思想科學に目覺め、日本精神にかへり、心身共に剛健なる、眞の日本國民に立歸つて、尊き

祖神と陛下の御天業を、翼賛し奉らなければならぬといふ、大切な時であります。恰もこの時に臨み、民心は科學萬能に傾き、自己の眞の使命と、前途に向つて進む

べき道を、未だ判然と定め得ず、爲に總ての國家社會の組織は、矛盾亂脈に陥つて、容易に眞理の常道に統制する事が出来ないといふ、有様でございます。

かゝる容易ならぬ、時勢に向つては、如何なる法律の條文も人の權力も、科學や學力の力でも、理想的に之を、改める事は出来ないのであります。

これこそ萬物を生み養ひ給ふ、絶對無比なる、權威にあらせ給ふ、祖神の御力によるの外はないと確信致しましたゝめに、著者は總て己れを無我にして、天に祈りました。

幾年かの祈りが天に通じたものか、時も時非常時局將に目前に迫りつゝあるこの時に、眞なる神の聲を天に聞く事が出来まして、先づその御神意を受けて、本書を世に公にすると共に、自己が起つて、君國のために盡すべき、明らかな道も示されたのであります。

過去十五年餘り、奮闘努力經營しました學校の存在、我が住む家の幸福を、人一倍

深く願つてゐる私ではございますけれども、君國の將來の重大性を思へば、自我の煩惱は、潔く解消しなければなりません。

君國が安泰に榮えてこそ、我が事業己が家庭の幸福も、愛する總ての人々の喜びも平和もあるのです。

一朝誤つて、君國に救ふべからざる重大事の起つた場合、國民の生命財産など、木葉微塵に粉碎されて、滅亡に歸するといふ事を想像したゞだけでも、戦慄を覚えます。よし小さき自己の總ての存在を失ひましても、君國さえ安泰に、國難を乗り切つて世界に大光明を輝かす事が出来ましたならば、地上人類は救はれるのだ、祖國日本の國土は安泰にして、民族は祖神より祝福せられ、畏くも天壤無窮の皇運を扶翼し奉る事が出来るのだと思ふ時、全身の血は湧き、靈は躍動するのであります。

君國守護、世界平和、この一念を神に念じて、その種として授けられて打込みましたのが、この萬壽華でございます。

親愛なる讀者の皆様が、眞にこの書に願ひ込めてある、神の心を限りなく味つて頂いて、諸共に己が心の真心の種として、之を養ひ、良き花と咲かせ、良き實と結ばせて、廣き世に弘めて頂きましたならば、世に生きる總ての者の上に差別なく、皆平等に眞の幸福をもたらす、人情の華薫る、萬壽華の花は、咲き満つると確信致します。著者は祖神の御神授と、深く畏み乍ら、心身を淨めて、筆を執りますに當りまして幾度も編纂の方法を考へました結果、餘りに固苦しく感じられる様な説明だけでは、妙味がないために、念願の極致に心眼を通して頂く事の出来ない場合を考慮致しまして、内容に幾分の興味と、和やかさを入れるために、自己の念願に依つて、神から御神授を受けました、夢に見た神の國天國を、中心と致しまして、里見直代といふ一女性を天使として働かせて居ります。

この主人公に直代と命名致しましたのは、尊き神靈である、萬壽華を受けて、人の世の矛盾を改め、住みよく明るく、朗らかな社會に造り改める、世直しの精である事

を表徴してゐるのでございます。

何卒この意味を、充分御了承下さいまして、本書を唯一遍の趣味や理想を描き出した、小説的の著書であるとお考へ下さらないで、著者の念願のある所をよくお掬み取り下さいまして、本書は文が拙くとも、著者の眞剣な祈りに依つて、御神受下されたる、祖神の御心である事を、見逃して頂かない様に、お願ひ致し度いと存じます。尤もかやうに申し上げますのは、本書をお読み下さいます、讀者の真心に觸れて、深く感應して、うなづいて頂ける點でありまして、その他眞理にかけ離れたる偏見は、著者の無能無學の結果として、御寛大に思召し、お見逃し下さいます様お願ひ致します。

終りに臨みまして、謹んで著者は深く、祖神の榮光を感謝し、君國の隆盛を眞心からお祈りすると共に、因縁深く、幸ひにして、本書を御愛讀頂けました親愛なる皆様のお御心身の上に、限りなく豊かな、祖神の、御靈光の輝きの満たされて、御心身の上

に、永遠に祝福あらせ給はん事をお祈りして、筆を納めさせて頂きます。

合掌

昭和九年初秋

龍子

教育修養雑誌

御國の華

定價一部 金拾貳錢
一ヶ年前納 金壹圓貳拾錢

本誌は一般地方青年處女又主婦の處世及び家事百般の常識修養雑誌として毎月一回發行致して居ります。本誌は普通の雑誌社發行の趣味雑誌とは、全然内容を異に致しまして精神的修養竝に實際の常識指導を目的使命として、獻身的に努力致して居ります。

今後重大な國家社會のため、又家庭の一員として完全なる使命を果し、人生最大の幸福を得んと望まれる方は、是非本誌を御愛讀下さる事を御勧め致します。

岐阜市田生越町

發行所

忠誠婦徳會

編輯者

片桐龍子

電話 二三三四五番
振替口座名古屋一六三九〇番

忠誠婦徳會發行の書籍

日本婦人の使命と	其の修養	片桐龍子著	定價 金貳圓 (郵稅拾貳錢)
宗教小説	天界地界 前編	片桐龍子著	定價 金貳圓 (郵稅拾貳錢)
宗教小説	天界地界 後編	片桐龍子著	定價 金貳圓 (郵稅拾貳錢)
理想小説	眞珠の塔	片桐龍子著	定價 金貳圓 (郵稅拾貳錢)
事實談	烈女の鑑	中田武雄著	定價 金壹圓 (郵稅拾錢)
教育小説	輝く道	片桐龍子著	定價 金貳圓 (郵稅拾貳錢)
理想小説	心の華	片桐龍子著	定價 金貳圓 (郵稅拾貳錢)
皇軍慰問日記	國境を越えて	片桐龍子著	定價 金貳圓 (郵稅拾貳錢)
家庭大學	姫かみ	片桐龍子著	定價 金貳圓 (郵稅拾貳錢)
國華寶典	心身健康秘録	國華神道學會編	定價 金參圓 (郵稅拾貳錢)

213

昭和九年九月十一日印刷
昭和九年九月十五日發行

不許
複製

定價 金貳圓

郵稅 拾貳錢

著者 片桐龍子
岐阜市田生越町

印刷者 河田貞次郎
岐阜市七軒町十二番地

印刷所 西濃印刷鐵岐阜支店
岐阜市七軒町十一番地

發行所 忠誠婦徳會
岐阜市田生越町

電話 二三四五番
振替名古屋一六三九〇番



終